

踏み跡 < My mountains >

越後	枝折峠から越後駒ヶ岳へ	No.095
----	-------------	--------

イメージを頭の中に描き始めてから実行に至るまでが非常に長い山、つまり思い描いてもなかなか機会が廻ってこない山、そういう山は誰でもいくつか持っているだろう。

越後駒ヶ岳(魚沼駒ヶ岳)は、僕にとってはそんな山の一つだった。それだけ期待も大きいし、チャンスを待つ気持ちにも只ならぬものがある。残雪の頃を狙っていたがチャンスを逃してしまい、紅葉の候となってしまった。

昭和42年10月13日

6月の万太郎山以来久しぶりの石関とのコンビ。

上野発22時03分秋田行。桶川に帰る吉村さんを列車に誘い込み、バナナの差し入れを頂戴。巻機山の時にもそうだったので半ば期待もしてはいたが……。上越線にはバナナはつき物らしい。

金曜日の夜、熊谷を過ぎて通勤客がいなくなると車内はガラガラになってきたので足を伸ばしてゆったりと睡眠の姿勢に移行。

昭和42年10月14日

一回目目を覚ますとトンネルの中、清水トンネルらしい。第二回目は五日町、もうちょっと眠り込んだら乗り越すところだった。雨がしとしと降っている。上越線の山旅には雨が付いてくることが多い。だが雨の後に快晴の経験をする人が多いので、今回もそれに期待することにした。

4時過ぎに小出着。駅の待合室には15人ぐらいの登山客がいる。待合室で朝食(握り飯+駅そば+ジュース)をとり、6時40分の銀山湖行のバスに乗車。



雨の新枝折峠で下車、8時。バスを降りたのは我々のほかには一人だけ。雨とはいえ銀山湖側を見ると霧に煙った荒沢岳と未丈ヶ岳が立派。駒ヶ岳は近く、大きい。

郡界尾根の岩峰が剣岳の八峰のように厳つく見える。(左写真:雨の枝折峠にて)

8時15分、ポンチョを着けて出発。旧枝折峠8時45分。氷砂糖と干しぶどうを食べて小休止。9時に出発。

ここから明神尾根の登りが始まる。急な登りではないが、雨がもたらす精神的負担は大きい。一瞬薄日がさ

し、佐梨川側に大きな虹の架け橋がかかって喜ばせたが、それもほんのわずかな時間だけで、相変わらず憂鬱な道程の連続。尾根の両側は白い霧の海、周囲はきれいに紅葉した灌木群、足元は水浸しのドロコ。こんな調子では途中で腰を下ろして休むわけにもいかないので、歩きはゆっくりだが休むことなく前へ。

約4時間で駒ヶ岳直下の駒の小屋に到着。12時50分、雨が止みそうな気配は感じられない。小屋は管理人が一人と雨量計、温度計、湿度計、気圧計。こういう小屋は面白いかもしれない。

管理人は別にもてなすわけでもなく話しかけてくるでもないが、こちらから話しかけると実に楽しそうに話に乗ってくる。繁華な山小屋ではないゆえに管理人も人が恋しくなることがあるのだろうか。

石油コンロを一台貸してくれたので、濡れたものを干しながら昼食。風向が西または北西に変わってきたが、まだ雨は落ち着き払って降っている。窓からは何も見えない。

16時、小屋の人が聞くらジオの気象通報を盗み聞きして天気図を作成。と言っても天気図用紙を持ってこなかったの、ノートに日本地図を走り書きしての作図。移動性高気圧の通過の途中に、北海道にできた低気圧が発達し大きな前線ができている。風向の変化からは天候好転の兆しと読むことはできるが、前

踏み跡 < My mountains >

線の強さから見て、あまり早い回復は期待できないと想定した。夕食17時、18時50分就寝、やや運動不足。

昭和42年10月15日

起床5時30分、雨はまだ休みなく降っている、ガッカリだ。朝食は餅入りラーメン。食事の後しばらく空模様をうかがうも期待すべき材料は皆無。この程度の雨ならば駒ヶ岳のピストンだけなら大丈夫だろうとの判断で、下山前に空身で頂上を往復することに決定。

10時30分出発。越後駒ヶ岳(2003m)10時15分。しっばりと濡れた草地の登りは決して楽ではない。飛び出した頂上には小さな馬頭観世音とおぼしき銅像が雨に打たれて建っている。それ以外には飾る物もなく、周囲は白い霧の海。晴れていれば中の岳、八海山、荒沢岳……魚沼の名峰が見渡せるであろうことは地図を見ただけでもよくわかる。それだけに、この雨の無情さに泣けてくる。

11時、小屋に戻ると霧雨は本降りになってきた。キスリングを整理して11時05分下山開始。

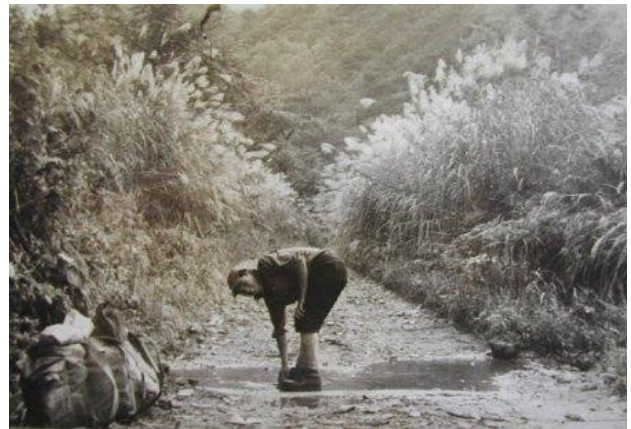
往路より足元の具合がはるかに悪い。

小倉山(1378m)12時15分。下山路は、多少の変化を求めて小倉尾根経由駒の湯へとした。

周囲の木々はことごとく紅に染まり、炎のごとき様相。途中ですすきの美しいところがあったので昼食。メニューはフランスパンにレーズンとジュース。

残念なことというか悔しいことに、我々が下っていくにつれて空模様がよくなってきた。

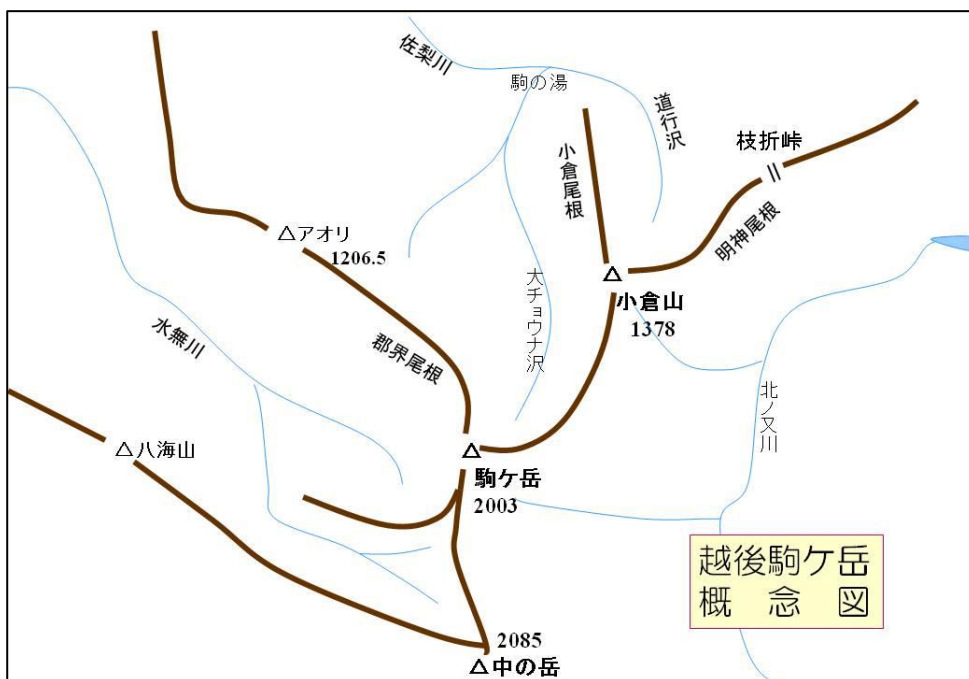
(右写真:駒の湯への道 水溜りて靴の泥を落とす)



駒の湯入口からバスに乗り小出駅へ。

小出発15時36分の高崎行に乗って帰った。天気がよくなかったことでいくらかの不満もありはしたが、永年の夢が叶い越後駒ヶ岳に登ることができたことの喜びの方が大きかった。

以上



(修正・更新:2023年11月)